

大谷婦人会
す
み
れ

ブラジルに南米支部が新たに設立



南米支部設立発会式に参加して

ブラジルの地に大谷婦人会の支部が設立された事はとても不思議な事だと思います。私の生まれた家は、お葬式、法事などは両親が携わっておりました。私は、結婚してから仏教に熱心な嶋田家で暮らしました。

父が亡くなった1974年、分家して2年目、母が父の法事はもちろん、分家した息子達の家にも仏さまを迎えさせました。私達は、650キロ離れたMinasUberabaという町に住んでおりましたが、一年に一度は必ずお参りをするようにと言われておりました。200キロ以上離れた所の弟はセラド開発に勤め、兄と同じMinas州に住んでいました。

1985年頃、大谷先生が北パラナ州のAssaiに17年間おられたので、当時嶋田家を尋ねて一週間ほど掛けて、バスに乗って嶋田家の本家分家の報恩講参りをして回られたものでした。

花まつりには、150キロ離れた町でしたが子ども達を連れて行ったものです。

2001年にパラナ州に引っ越してから、研修会等いろいろなお寺の催しに参加しております。

ブラジルは、距離が遠く何事も大変です。仏教に感心のある方々は、お年寄りが多く、若い方々にもお伝えして行こうと思っております。

花すみれも楽しみにしております。

110年前移民されてこられた方々の中で、荷物の底に阿弥陀様の御影像を持ってこられたお陰で、辛い厳しい生活を乗り越えられ、今日の私達が様々な人種の人々との生活をする中で、心の拠り所としての阿弥陀様の御教えを、何とか若い方達に伝えて行く活動を日本の皆様に支えていただいで展開して参りたいと思っております。

南米支部 支部長 嶋田 智恵子

世界の念仏申す人と交流

2018年8月31日、南米の地、ブラジル別院に新しく大谷婦人会のお仲間が出来ました。その発会式に前常任委員他9名の方が代表して参詣してまいりました。嶋田智恵子支部長をはじめ、75名の会員が参集、開教使と会員の方々による心あたたまる法要、そして宮本春美前委員長のポルトガル語の挨拶には満堂の方々も感激の面持ちでした。残念ながら私は日本語での挨拶、先達の大変なる御苦労の中、念仏の伝達があったればこそと、私の方が胸にせまるものがありました。子ども報恩講や音楽法要と3日間ゆっくりお参り出来、遠い本当に遠い地ではありましたが、有意義な感動の旅でした。2020年には真宗本廟において、世界同朋大会が開催されます。またお会いできることを願っております。

大谷婦人会委員長 月輪 満子



大谷婦人会南米支部設立発会式を開催

開催日：2018年8月31日（金）

会場：フラジル別院南米本願寺

南米支部設立発会式に参加して

私達は、ロンドリーナ・アブカラナから7名が飛行機でブラジル別院の報恩講にお参りし、一日目の大谷婦人会の南米支部設立発会式に参加しました。

はるばる日本より大谷暢裕開教司教、大谷婦人会大谷幸香副会長をお迎えして南米支部設立発会式が開催されました。

宮本春美前委員長がポルトガル語でご挨拶されました時は、本堂中に感動の波紋が広がっている様でした。

支部が設立され、日本との交流が深まります事を心から願っております。

今から110年前、日本人移民として共に海を渡ってきた仏教、その教えを支えとして先達は数々の困難を乗り越えて来られたのでしょ。

高齢化の進む現状の中で、次世代を担う若い人たちに真宗の教えを受け継いで頂きたいと願っております。

有意義な三日間でした。良いご縁を頂きまして有り難うございました。

南米支部 庶務 上口 由紀

はるかかなたのお念仏

海の内外のへだてなく… 本当に心にしみて、如来大悲の恩徳は…胸があつくなって。

振袖、袴姿の子どもたちの献茶、献花、正信偈の高らかな声。「とどけようナンマンガブ」はるか18,000キロを超えて、100年にも余る年月で確かにとどけられ、引き継がれていたことに感動。サンパウロのブラジル別院での報恩講でした。

大谷婦人会常任委員 近藤 由美子

南米支部設立発会式に参加して

初めてブラジル別院の報恩講に参拝させていただきました。日系の多くの方々の歓迎、そして大きな声の正信偈は遠い所で良き御同朋に出遇えた喜びでありました。そして、この時に大谷婦人会南米支部設立の会に同席させていただきました。前委員長宮本春美さんの流麗なるポルトガル語の熱意あるスピーチは、地元の人々の心に染み入り、新委員長月輪満子さんの優しい日本語もまた、堂内に和やかな雰囲気満ち満ちて、遠く南米の地に念仏の花が開く事を確信するものでした。この大谷婦人会設立は南米開教区教化活動において重要であることは、言うまでもありません。

遠くの御同朋を思う時、別院内の部屋に掛っていた「遠く宿縁を慶べ」の言葉が思い出され、今も心に響いております。Muito obrigado. 合掌

岡崎教区 第25組 陽龍寺 住職 石川 春成



大谷婦人会南米支部設立にあたり

はじめに、昨年5月、大谷婦人会南米支部設立説明会のため、長時間をかけて遠いブラジルまでお越しくださった宮本春美委員長(当時)に心より御礼申し上げます。

日本の文化や言葉に未熟な私たちですが、今後とも大谷婦人会の一員として、どうぞよろしく願いいたします。

また、ブラジル別院南米本願寺報恩講の際に行われた発会式には、大谷幸香副会長をはじめ、多くの大谷婦人会の皆様が御参詣いただきました事は、私たちにとってかぎりない喜びです。

そして、このように遠く離れたブラジルまで、南無阿彌陀仏を届けてくだ

海の向こうの婦人会

110年伝わるブラジルでの法脈のうえに、新たにブラジル別院大谷婦人会が開かれ、その場に立ち会い感涙いたしました。皆様方のご苦勞があったこと。京都とブラジル簡単に行ったり来たりできる距離でないことも実感いたしました。報恩講にも参拝いたし、その中で袴姿や振袖姿のお子達によって献花・献茶が行われ、伝統ある儀式や日本の文化も継承されていました。「聞法一路」ともに歩いていきたいと思ひます。

大谷婦人会前副委員長 伊勢 順子

南米支部設立発会式に参加して

このたびは、大谷婦人会南米支部設立発会式という大変貴重なご縁に遇わせて頂きました。ブラジル別院婦人会はじめ職員・ご門徒皆様のご厚情を頂き、ご一緒に正信偈を唱和致しました時には、25時間以上の移動の疲れも忘れるほどで、日本から遠く離れた地での御堂に響くお念仏の声に、文化や言語の違いを乗り越え苦難の生活と共に念仏申して来た六十有余年の開教の歴史の重さを感じると同時に、世界に広がる念仏を目の当たりに致しました。それはまた、大谷婦人会が掲げる「とどけようナンマンガブ」の体現と、聖人がお示し下さった「同一に念仏して別の道なきがゆえに」という姿であり、私自身の今を問ひかける言葉ともなりました。

根室別院支部 小町 保雅

大谷婦人会南米支部設立発会式



ブラジル別院報恩講の厳修に合わせ、開教司教大谷暢裕様ご臨席のもと、各地より大勢のご門徒が参詣され賑々しく設立発会式。500キロ1000キロ以上も離れた州から参拝された方々

は、別院に宿泊し、朝から晩まで聞法三昧。

総勢9人での渡伯、多くの現地の門徒の皆さんに温かく迎えられ、ともに声高らかに正信偈を唱和した感動と感激。国を越え、言葉を越え文化の異なる中で、宗祖親鸞聖人が今現在説法下さるお姿が彷彿とされる瞬間に改めて感動し感激。お念仏のみ教えを若い方々に伝える決意を感じた一瞬。

ご門徒の家庭では、家族はもちろん来客も集うリビングルームにお内仏を安置。良い事も思うようにならない事も・不安も苦しみもお念仏と共に生活があることを実感。この度の渡伯の大いなるお土産。全国の会員にさっそくおすそ分け!!

大谷婦人会初代委員長 宮本 春美

ブラジル別院への参拝

「サンパウロ!!」私の念願の「ブラジル別院!!」やっと渡伯出来る機会が巡って来ました。「報恩講と大谷婦人会の設立発会式」に参拝が出来、何といひ御縁に出会えた事か。

私は余りにも感動と感謝の嬉しさに胸が熱くなり「ナンマンガブツ」と手を合わせ涙がこぼれていました。

ブラジルの方々と出会えた喜びはひとしおで言葉になりませんでした。

共に同行した皆様有難うございました。

「オブリガード!!!」 合掌

大谷婦人会前常任委員 梶原 恭子

ブラジル別院報恩講参拝に寄せて

7月の常嘉の時陽龍寺住職よりブラジル別院報恩講への参加逍遙を受け一瞬迷いました。その理由は禁煙時間が長いことありますが、母や妻の勧めもあり、めったに行ける所ではないことや住職からの折角のお誘いもあり渡航を決めました。

報恩講参加で①現地の皆さんが我々の参加を心より歓迎してくれたこと、②門徒の皆さんが極めて熱心なこと、③旅行者に対する思いやりに感動しました。

また、同行の皆様より沢山の好意ある教えや心温まる接遇をいただき実りある旅となりました。

おかげで3キロ太って帰朝しました。

岡崎教区 第25組 陽龍寺 門徒会員 羽根田 泰男

2018年度 委員協議会を終えて

昨年12月11日開催の委員協議会では、全国より22名（委員21名・監事1名）出席のもと、諸行事について協議いたしました。

まず、この度の災害のお見舞いを申し上げ、台風21号にて被災されました野々市支部へ10万円、北海道連合会には200万円の義援金を送らせていただいた事をご報告し、今後も継続的支援を致したく、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

昨年の委員改選により新体制となって早や半年が経過致しました。「聞法一路」の精神と、サブテーマ「とどけようナンマダブ」を継続し、皆様と共に、大谷婦人会事業の更なる発展に努めてまいる所存です。

今後の行事予定では、3月に開催の「すみれ会」を如何にして若年層の方に参加していただけるか、今後のあり方について座談会形式で話し合われました。

また、今後の全国大会については地方開催を視野に入れて取り組むという事や、次年度の支部長・役員研修会は猛暑対策なども考慮し新たな試みとして、リニューアルされた同朋会館・和敬堂を会場に、本廟奉仕を基本日程とした内容を提案し、協議いたしました。さらには、支部等における聞法会に皆様方が少しでも参加し易い様にと保育室設置助成・交通費助成などを継続してまいります。いよいよ「聞法一路」大切な大谷婦人会、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

大谷婦人会委員長 月輪 満子

『やさしい法話シリーズ』 No.20 新刊発行



のぶつが ともみち 述 ねんぶつ おうじょう せいかつ きはん 延塚 知道 述 「念仏往生の生活規範」

毎年ご好評いただいております『やさしい法話シリーズ』を今年も発行いたしました。

今回は、2018年4月24日に真宗教化センター「大谷ホール」にて開催された2017年度全国大会の講師である延塚 知道 師(大谷大学特別任用教授)のご法話を掲載しております。

お買い求めは大谷婦人会事務局まで(TEL:075-371-6181)

価格：1部130円(税込・送料別)

第3回すみれ会のご案内

年々若年層の関わりが減少している状況から、若い世代に仏法聴聞の大切さを伝えるため、共にお念仏申すことができる環境づくりとして、次世代を担う方たちが集うことのできる聞法の間「すみれ会」を開催いたします。

- (1)日 時 2019年3月6日(水) 10:00~15:00
- (2)会 場 真宗教化センター 大谷ホール
- (3)講 師 西賢 師(岐阜聖徳学園大学教授)
- (4)講 題 「今はさてあらん」のやすらぎ
- (5)対 象 各教区の委員選出数に従う28名の方
- (6)参加費 お1人 2,000円
- (7)その他

- ①参加者の往復旅費を大谷婦人会が負担いたします。
- ②当日は保育室を設置いたします。(利用者が有る場合のみ)

2018年度全国大会・春季永代経法要のご案内

- (1)日 時 2019年4月16日(火) 13:00~16:00
13:00~13:00
〈全物故会員追法要・春季永代経法要(音楽法要形式)〉
13:50~16:00〈全国大会〉
17:00~19:00〈交流会〉
- (2)会 場 〈法要・大会〉真宗教化センター大谷ホール
〈交流会〉リーガロイヤルホテル京都
- (3)講 師 尾畑 文正 師
(元同朋大学学長・元真宗大谷派南米開教区開教監督)
- (4)講 題 大心海に帰命せよー世界を開くお念仏ー
- (5)冥加金 お1人 2,000円(大会)・10,000円(交流会)

交流会場までは無料バスを運行いたします。(復路は京都駅まで)
詳細は各支部宛にお送りするご案内をご覧ください。